

出題『新パターン』 対応冊子 — 独検合格4週間2級 大問1 —

2014 年秋期および 2015 年春期は、大問 1 の出題パターンが従来のものから（出題内容そのものは同一方向と言えるかも知れませんが）大幅に異なりました。今後もこの出題パターンが継続されるのか、あるいは再び従来のものに戻るのか定かではありませんが、どのような状況になっても、柔軟に対処できるよう、当分の間は、別冊方針をとることにしました。

なお、本体の学習内容は、出題パターンの変更にに関わりなく、必要なものですので、従来通り、しっかり学習し、受験の準備を万全にされることをお勧めいたします。

在間 進

亀ヶ谷昌秀

第1問 派生語と接辞（小問1に対応）

【対策問題】次の（1）（2）の条件に当てはまるものを下の1～4のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

（1）名詞 **Glück** 「幸せ」に付いて形容詞 **glücklich** 「幸せな」を作る -lich のように、名詞 **Blut** に付いて形容詞を作る接尾辞。

1 -isch 2 -sam 3 -bar 4 -ig

（2）否定・反対などの意味を表す接頭辞 **un-** が付かない形容詞。

1 sicher 2 höflich 3 direkt 4 fähig

解答欄（1） ☐ （2） ☐

【確認ポイント】

- ☐ 多くの語は、接辞を伴って、新しい意味の語を作る。
- ☐ 接辞は、単独では用いられない語の構成素である。たとえば、**Un**glück 「不幸」の **Un-**、**glücklich** 「幸せな」の **-lich**。
- ☐ **Un-** のように、前に付けるものを接頭辞、**-lich** のように、後ろに付けるものを接尾辞と呼ぶ。

【解説と解答】

（1）の Blut に付き、形容詞を作る接尾辞は **-ig** です。

Blut 血 — blutig 血だらけの

したがって、正解は 4。*blutlich, *blutsam, *blutbar という形容詞はありませんね。

注：使用に関する判断は、Duden online (<http://www.duden.de/woerterbuch>) に準拠します。また、語の前の「*」印は使用不可であることを表します。

(2) の形容詞に**接頭辞 un-** を付けると、以下ようになります。

sicher	確実な	－	unsicher	不確実な
höflich	礼儀正しい	－	unhöflich	無礼な
direkt	直接の	－	*undirekt	
angenehm	快適な	－	unangenehm	快適でない

したがって、**正解は 3**。なお、direkt の反対語は、indirekt 「間接の」です。

【ーロメモ】

小問 1 では、ここ 2 回、派生語が出題対象になっています。なお、派生語に関する簡単な説明が本書の 18 頁 19 頁にもあります。また、接尾辞 -los/-frei については、今後、郁文堂のホームページにも情報を掲載する予定ですので、そちらも参照してください。

【コラム：不定詞の名詞化】

不定詞は、頭文字を大文字にすることによって、名詞として用いることができます（意味は「…すること」；文法上の性は中性）。

Das **Lesen** macht mir Spaß. 読書は私の楽しみです。

Er hilft mir beim **Kochen**. 彼は私の料理の手助けをします。

Er unterschrieb ohne **Zögern**. 彼は躊躇なくサインをしました。

なお、すでに独自の意味を持つようになっているものもあります。

das Essen	食事	<essen	食べる
das Leben	生命	<leben	生きている
das Treffen	会合	<treffen	会う

【対策学習】派生語と接辞

1. 接辞の付いた語を派生語と呼びます。接辞は、単独で用いられない「語の構成素」です（前頁の Un- と -lich）。そして、Un- のように前に付ける接辞を**接頭辞**，後ろに付ける接辞を**接尾辞**と呼びます。
注：動詞の接頭辞（前つづり）については，本冊子第2問を参照。

2. 接辞には，使用されている語数が多いものと，もうすでに特定の語にのみ見られるものとがあります。

2. 1. 主な接尾辞

(A) 派生名詞を作る接尾辞

注：以下の表の「(男)」などは文法上の性，「<」の後ろの語は関連語。

-er	(男)	Leser	読者	< lesen	読む
		Wecker	目覚まし時計	< wecken	起こす
-chen	(中)	Mädchen	女の子		
		Häuschen	小さな家	< Haus	家
		注：以前は -lein も同じ意味で使われていました：Röslein 「小さなバラ」(< Rose 「バラ」)。			
-heit	(女)	Schönheit	美しさ	< schön	美しい
		Wahrheit	真実	< wahr	真実の
-keit	(女)	Ewigkeit	永遠	< ewig	永遠の
		Einsamkeit	孤独	< einsam	孤独の
-igkeit	(女)	Feuchtigkeit	湿気	< feucht	湿った
		Schlaflosigkeit	不眠	< schlaflos	不眠の
-schaft	(女)	Botschaft	大使館		
		Landschaft	風景		
-ung	(女)	Einladung	招待	< einladen	招待する
		Übung	練習	< üben	練習する
-in	(女)	Ärztin	女医	< Arzt	医者
		Sekretärin	女性秘書	< Sekretär	秘書

(B) 派生形容詞を作る接尾辞

-bar	fruchtbar	実りある	<Frucht	実
	brennbar	可燃性の	<brennen	燃える
-lich	ärgerlich	腹立たしい	<Ärger	怒り
	freundlich	親切な	<Freund	友人
-ig	traurig	悲しい	<Trauer	悲しさ
	einmalig	一度だけの	<einmal	一度
-isch	städtisch	町の	<Stadt	町
	chemisch	化学の	<Chemie	化学
-sprachig	fremdsprachig	外国語の	<fremd	外国の
	zweisprachig	2か国語の	<zwei	2

注：副詞を作る接尾辞

-weise	glücklicherweise	「幸運にも」(<glücklich「幸運な」)
	unglücklicherweise	「不運にも」(<unglücklich「不運な」)
-wärts	abwärts	「下へ」(<ab「…から」)
	nordwärts	「北方へ」(<Nord「北」)

2. 2. 主な接頭辞

Miss-	Misserte (女)	不作	<Ernte (女)	収穫
miss-	missbrauchen	濫用する	<brauchen	使用する
Un-	Unruhe (女)	騒がしさ	<Ruhe (女)	静けさ
un-	unbekannt	未知の	<bekannt	既知の
	unmöglich	不可能な	<möglich	可能な
Ur-	Urwald (男)	原始林	<Wald (男)	森
ur-	uralt	非常に古い	<alt	古い
in-	inadäquat	不適切な	<adäquat	適切な
il-	illegal	非合法の	<legal	合法の

注：接頭辞を付けても、品詞や文法上の性は、変化しませんが、Ge- の付いた名詞は、すべて中性名詞になります：**Gebirge** (中)「山地」、**Gepäck** (中)「手荷物」。

【実戦トレーニング】

次の（１）～（７）の条件に当てはまるものを下の１～４のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- （１）名詞 **Mensch**「人間」に付いて形容詞 **menschlich**「人間的な」を作る **-lich** のように、**Mut** と結びついて形容詞を作る接尾辞。

1 **-ig** 2 **-isch** 3 **-weise** 4 **-bar**

- （２）**Europa**「ヨーロッパ」と結びついて形容詞（ウムラウトを伴う）を作る接尾辞。

1 **-ig** 2 **-bar** 3 **-isch** 4 **-sam**

- （３）**Dunkelheit**「暗闇」の基になる **dunkel**「暗い」のように、**-heit** と結びついて名詞を作る形容詞。

1 **dankbar** 2 **frech** 3 **heiter** 4 **gemütlich**

- （４）**tragbar**「持ち運びできる」の基になる **tragen**「運ぶ」のように、語幹に **-bar** を付けて形容詞を作らない動詞。

1 **essen** 2 **erklären** 3 **drehen** 4 **absagen**

- （５）**Öffnung**「開店」の基になる **öffnen**「開ける」のように、**-ung** と結びついて名詞を作る動詞。

1 **ändern** 2 **fliegen** 3 **baden** 4 **klingen**

- （６）逆・反対であることを表す接頭辞 **Miss-** が付かない名詞（難問）。

1 **Erfolg** 2 **Achtung** 3 **Kauf** 4 **Billigung**

- （７）対応する動詞の語幹が、**Traum** – **träumen** のように、ウムラウトを含む名詞。

1 **Dank** 2 **Trost** 3 **Bad** 4 **Ruf**

第2問 動詞の前つづり（分離前つづり；小問2に対応）

【対策問題】次の文（A）～（D）の（ ）に入る動詞の前つづりが正しい順序で並んでいるものを下の1～4のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- (A) Hans steigt in Bonn () .
(B) Machen Sie bitte das Licht() !
(C) Ich habe () , in die Schweiz zu fahren.
(D) Fährst du () zum Angeln?

	(A)		(B)		(C)		(D)
1	aus	—	zu	—	nach	—	mit
2	aus	—	an	—	vor	—	bei
3	ein	—	aus	—	vor	—	mit
4	ein	—	auf	—	nach	—	bei

解答欄 ☐

【確認ポイント】

- ☐ 主文で定形として用いられる場合、前つづりが**分離する**動詞がある。
この種の動詞を**分離動詞**と呼ぶ。
- ☐ 分離する前つづり（接頭辞）を**分離前つづり**，前つづりを除いた部分を**基礎動詞**と呼ぶ。
- ☐ 基礎動詞は、定動詞（定形の動詞）の**一般的語順規則**（平叙文と補足疑問文の場合，第2位，決定疑問文の場合，文頭に置かれるなど）に準じ，そして，前つづりは**文末**に置かれる。
- ただし，**副文**では，分離前つづりと基礎動詞が分離せず，**文末**に置かれる。

【解説と解答】

まず (A)。**基礎動詞**は *steigen*, **選択肢**は *aus* と *ein* のみ。両者で作りうる分離動詞は, *aussteigen* 「下車する」, *einsteigen* 「乗車する」。どちらでも正しい文になります。訳は「ハンスはボンで下車します／乗車します」。

次に (B)。**基礎動詞**は *machen*, **選択肢**は *zu*／*an*／*aus*／*auf*。文は2人称敬称の命令形。作りうる分離動詞は, *zumachen* 「閉じる」, *anmachen* 「つける」, *ausmachen* 「消す」, *aufmachen* 「開ける」。目的語が *das Licht* なので, 文脈的に合致するのは, 選択肢2の *an* と3の *aus*。訳は「明かりをつけて下さい／消して下さい!」。

次に (C)。**基礎動詞**は *haben*, 残っている**選択肢**は2と3だが, 共に *vor*。両者で作りうる分離動詞は, *vorhaben* 「予定がある」。訳は「私はスイスに行く予定です」。

最後に (D)。**基礎動詞**は *fahren*, 残っている**選択肢**は2の *bei* と3の *mit*。作りうる分離動詞は, *beifahren* と *mitfahren*。Beifahrer 「同乗者」という名詞はあるが, *beifahren* という動詞はない。他方, 3の *mit* と作りうる分離動詞 *mitgehen* 「一緒に行く」は, 文脈的にも合致します。

したがって, **正解は3**。訳は「釣りに一緒に行かない?」。

【一口メモ】

(A) の**選択肢**は, どれをとっても正しい文になるので, (A) は, 正解を探す手がかりになりませんね。他方, (B) (C) (D) の場合は, それぞれ2つの**選択肢**を排除することができます。したがって, (A) ～ (D) のどれから始めるかで, 解答の手間が異なるわけですが, まず, 4つの文の中で, 自信を持って解答できそうな文を選び出し, そこから解答を始めるのが一番順当な解答方法とれます。【実戦トレーニング】で, 一度, 試してみませんか?

【対策学習】分離前つづり

1. 動詞に付ける**接頭辞**で、平叙文では、分離するものを**分離前つづり**と呼びます。

2. 分離前つづりの中には、基礎動詞と一体になって一つの意味を**熟語的に**形成するものもあれば、**独立した意味**を持つものもあります。たとえば、

Es **hört nicht auf** zu regnen. 雨が降りやみません。

の分離動詞 auf|hören「終わる」の場合では、分離前つづり auf に独立した意味を認めることができませんが、他方、

Er steigt in Köln **ein**. 彼はケルンで乗車します。

Er steigt in Köln **um**. 彼はケルンで乗り換えます。

Er steigt in Köln **aus**. 彼はケルンで下車します。

の分離動詞 ein|steigen「乗車する」、um|steigen「乗り換える」、aus|steigen「下車する」の場合、それぞれの分離前つづりに、「中へ」、「変更」、「外へ」という独立した意味を認めることができます。

3. 独立した意味が認められる主な分離前つづりおよびその具体例を挙げます。

ab- 《離れる》

ab|fahren「出発する」、ab|fliegen「飛び去る」、ab|fließen「流れ出る」、ab|holen「取って来る」、ab|laufen「流れ出す」、ab|reisen「旅立つ」、ab|schicken「発送する」

an- 《付着》

an|binden「結びつける」、an|kleben「貼りつける」、an|knüpfen「結びつける」、an|nageln「くぎで打ちつける」

auf- 《開いた状態》

auf|drücken 「(ドアなどを) 押して開ける」, auf|machen 「開ける」,
auf|schlagen 「たたいて割る」, auf|schneiden 「切って開ける」

aus- 《(中から) 外へ》

aus|fallen 「(髪などが) 抜け落ちる」, aus|gehen 「(デートなどに)
出かける」, aus|pressen 「押し出す」, aus|schließen 「排除する」,
aus|schütten 「ザッーと空ける」, aus|steigen 「降りる」

ein- 《(外から) 中へ》

ein|führen 「輸入する」, ein|lassen 「中に入れる」, ein|nehmen
「(薬を) 服用する」, ein|reisen 「入国する」, ein|setzen 「はめ込
む」, ein|steigen 「乗る」, ein|tragen 「記入する」, ein|treten 「(部
屋などに) 入る ; 入会する」

mit- 《一緒に》

mit|arbeiten 「一緒に働く」, mit|fahren 「(車などで) 一緒に行く」,
mit|kommen 「一緒に来る」, mit|spielen 「一緒に遊ぶ」

vor- 《先に・前へ》

vor|fahren 「先に出発する」, vor|gehen 「先に行く」, vor|legen
「提示する」, vor|treten 「前に歩み出る」

zu- 《閉じた状態》

zu|binden 「結んで締める」, zu|klappen 「(ドアなどが) パタンと閉
まる」, zu|kleben 「貼ってふさぐ」, zu|machen 「閉める」

zurück- 《戻って》

zurück|bringen 「(元の場所などに) 戻す」, zurück|denken 「(昔の
ことを) 思い返す」, zurück|geben 「返却する」, zurück|kommen
「戻って来る」, zurück|werfen 「投げ返す」

【実戦トレーニング】

次の文 (A) ～ (D) の () に入る動詞の前つづりが正しい順序で並んでいるものを下の 1 ～ 4 のうちから一つ選びなさい。

- (1) (A) Ich nehme Ihre Einladung gern () .
(B) Denk () , bevor du sprichst!
(C) Junge Leute gehen am Sonnabend meist () .
(D) Er bindet den Sack mit einer Schnur () .

	(A)		(B)		(C)		(D)
1	auf	－	über	－	mit	－	ab
2	auf	－	zurück	－	zu	－	auf
3	an	－	nach	－	aus	－	zu
4	an	－	mit	－	nach	－	zusammen

- (2) (A) Der Zug fährt ein. Bitte treten Sie () .
(B) Er steht schnell () , um die Gäste zu begrüßen.
(C) Ich schlage () , dass wir heute Pizza essen gehen.
(D) Im November fängt es () , früh dunkel zu werden.

	(A)		(B)		(C)		(D)
1	vor	－	auf	－	vor	－	auf
2	aus	－	zu	－	nach	－	an
3	ein	－	zu	－	nach	－	auf
4	zurück	－	auf	－	vor	－	an

*より多くの具体例は、今後郁文堂のホームページにアップする予定ですので、そちらを参照してください。

第3問 語句の配列 (小問3に対応)

【対策問題】 次の会話 (1) (2) の () に入る最も適切なものを下の1～4のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) A : Können wir schon gehen?

B : Nein, Mama ist () .

- 1 mit dem Schminken noch nicht fertig
- 2 noch mit dem Schminken nicht fertig
- 3 nicht noch fertig mit dem Schminken
- 4 fertig mit dem Schminken noch nicht

(2) A : Bereust du das?

B : Ja, jetzt weiß ich, dass ich es () .

- 1 nicht hätte tun sollen
- 2 nicht tun sollen hätte
- 3 tun nicht sollen hätte
- 4 hätte sollen nicht tun

解答欄 (1) ☐ (2) ☐

【確認ポイント】

□語、語句は、時間軸に沿って、一線上に並べられる。

□語と語、語句と語句は、意味関係に基づいて、関連づけられる。

【解説と解答】

(1) は、fertig と mit dem Schminken と nicht と noch の語順関係の問題です。

まず、**fertig** と **mit+3格** の語順関係ですが、**mit+3格 fertig** でも **fertig mit+3格** でもよいので（意味は「…³が済んでいる」）、両者の語順関係は決め手になりません。

次に、**nicht** ですが、**nicht** は、否定される語句の前に置かれます。したがって、否定されるのが「済んでいる」だけならば、**fertig** の直前、「化粧が済んでいる」ならば、**mit dem Schminken fertig** 全体の前ということになります。この点で選択肢4が外れます。

最後に、**noch** ですが、**nicht** と結びつく場合、**noch nicht** の順序になります（「まだ…でない」）。

したがって、残る選択肢は1のみなので、**正解は1**。訳は、「A：もう行けるかい？」「B：うん、お母さんのお化粧がまだ済んでいないの」。

(2) は、**nicht** と **tun** と **sollen** と **hätte** による**接続法第2式過去**の作り方の問題です。

まず、確認すべきことは、①**話法の助動詞**の場合、不定詞が過去分詞の代用形として用いられるということと、②**副文**の場合、定動詞（定形の動詞）や動詞的成分が文末に置かれるということです。

では、なぜこの2点が問題になるのかと言うと、ドイツ語には、不定詞+「過去分詞の代用形としての不定詞（特に話法の助動詞）」+定動詞の順序で動詞が並ぶ場合、最後の定動詞は、前の2つの不定詞の前に置くという規則があるのです。

したがって、**正解は1**。訳は、「A：後悔しているの？」「B：うん、今、私は、それがすべきでなかったことだと分かったのです」。

【一口メモ】

これまで、**noch nicht** の順序という語彙的なものと、副文での語順という文法的なものが出題されましたが、今後、どのような問題が出題されるのでしょうか？直接、尋ねることができれば一番よいのですが。

【対策学習】語句の配列（小問3に対応）

1. 対策問題の（1）は，**2014 年秋期**の出題に準じたもの，（2）は，**2015 年春期**の出題に準じたものです。これら2回の出題を見ただけでは，何が出題ポイントになるか定かではないため，ここでは，出題された複合的動詞句と否定詞 **nicht** の熟語的結合について，問題になりそうな事例を挙げることにします。

2. 副文における主な複合的動詞句

(a) 完了形＋話法の助動詞

dass er die Prüfung **bestanden haben muss**

彼が試験に受かったに違いないこと…

(b) 話法の助動詞の完了形

dass er in die Stadt **hat gehen müssen**

彼が町に行かねばならなかったこと…

(c) 使役の助動詞 **lassen**／知覚動詞の完了形（ふつうの語順も可）

dass er im Restaurant seinen Hut **hat liegen lassen** (liegen lassen hat)

彼がレストランに帽子を置き忘れたこと…

dass er die Vögel **hat zwitschern hören** (zwitschern hören hat)

彼が鳥たちのさえずるのを聞いたこと…

(d) 受動の現在形／過去形

dass er ... **verhaftet wird**／**wurde**

彼が逮捕される／逮捕されたこと…

(e) 受動の未来形／完了形

dass er ... **verhaftet werden wird**／**worden ist**

彼が逮捕されるだろう／逮捕されたこと…

(f) 受動の現在形／完了形＋話法の助動詞

dass er ... **verhaftet werden muss**／**worden sein muss**

彼が逮捕されねばならない／逮捕されたに違いないこと…

3. nicht の熟語的結合

(a) **gar nicht**／**durchaus nicht**／**überhaupt nicht** 全然…でない

Das kommt **überhaupt nicht** in Frage! それは全然問題になりません。

(b) **noch nicht** まだ…でない

Er arbeitet **noch nicht**. 彼はまだ働いていません。

(c) **nicht einmal** ～すら…でない

Ich weiß **nicht einmal** seinen Namen. 私は彼の名前さえ知りません。

(d) **nicht ganz** まったく…というわけではない

Er versteht es **nicht ganz**.

彼はそのことを完全に理解しているわけではありません。

(e) **nicht im Geringsten** これっぽっちも…でない

Das interessiert mich **nicht im Geringsten**.

それは私の興味をこれっぽっちも引きません。

(f) **nicht mehr** もはや…でない

Sie arbeitet **nicht mehr**. 彼女はもう働いていません。

(g) **nicht ohne** …がないわけではない

Er hat es **nicht ohne** Grund getan.

彼がそうしたのはそれなりの理由があったのです。

注：これらの問題は、A と B の会話形式になっていますが、A の部分がなくても、語彙的あるいは文法的な問題として、解答できるものです。しかし、2度とも、A と B の会話形式になっているところを見ると、文脈依存の問題 が出される可能性が大と言えます。したがって、ドイツ語の語順に関する一般的規則をしっかりと学んでおくことをお勧めします。今後、郁文堂のホームページに、「語順規則」に関する説明を掲載する予定ですので、そちらも参照してください。

【実戦トレーニング】

次の会話（１）～（３）の（ ）に入る最も適切なものを下の１～４のうちから一つ選びなさい。

（１） A : Warum bist du böse auf ihn?

B : Weil er mir nicht helfen wollte, obwohl er () .

- 1 es hätte können tun
- 2 es können tun hätte
- 3 es hätte tun können
- 4 es tun können hätte

（２） A : Du siehst betrübt aus.

B : Ja, ich habe etwas gemacht, was ich () .

- 1 nicht hätte sollen tun
- 2 nicht tun sollen hätte
- 3 nicht tun hätte sollen
- 4 nicht hätte tun sollen

（３）＜応用問題＞

A : Du siehst so froh aus.

B : Ja, ich habe () gewonnen.

- 1 im Lotto schon wieder
- 2 schon wieder im Lotto
- 3 wieder schon im Lotto
- 4 schon im Lotto wieder

第4問 長い語句の組み合わせ（小問4に対応）

【対策問題】(A) ～ (D) を並び替えて文を作るとき，正しい順序で並んでいるものを下の1～4のうちから一つ選び，その番号を解答欄に記入しなさい。なお，文頭に来る語の頭文字も小文字のままで，コンマ（,）とピリオド（.）は省かれています。

- (A) auf dem ich dann Platz nahm
- (B) sagte er widerwillig
- (C) und stand langsam von seinem Stuhl auf
- (D) „Na gut“

- 1 (D) → (B) → (C) → (A)
- 2 (D) → (C) → (A) → (B)
- 3 (B) → (D) → (C) → (A)
- 4 (B) → (C) → (A) → (D)

解答欄 ☐

【確認ポイント】

□テキスト（文）の語句は，文法的決まりを除けば，基本的に，相手が理解しやすいように並べられる。したがって，たとえば，以下の場合，a) より b) の方が好まれる：

- a) おじいさんとおばあさんが／あるところに／昔々／住んでいました。…
- b) 昔々／あるところに／おじいさんとおばあさんが／住んでいました。…

注：以前，学生が大学図書館にあるドイツ語の小説の冒頭文のみをすべて調査したところ，大半が場所や時間の副詞句だったとのことです。

【解説と解答】

設問は、一つの複雑な複合文を4つの部分に分け、それを並び替えさせて、再構築させるものです。

まず、ドイツ語の文は、ふつう**主語と動詞**を含む主文が軸になるので、(A)～(D)のうちで、主語と動詞が明示されているものを探すと、(A)と(B)。そのうち、(A)は、動詞が**文末**に置かれているので(さらに言えば、関係文なので)外れ、軸になるのは(B)(=「彼はしぶしぶ言った」)ということになります。

次に、軸になる(B)ですが、定動詞(定形の動詞)が先頭に置かれています。平叙文なら、**定動詞第2位**(定形第2位)の原則に基づき、その前に何かが置かれねばなりません。可能なのは、発話の内容の(D)(=「まあ仕方ないな」)。

次に、(B)の後ろに置くことができるものです。(A)は、関係文。しかし、(B)には、(A)の**先行詞**になりうるものが存在しないので、外れます。したがって、残るのは、(C)のみ(=「そしてゆっくりと椅子から立ち上がった」)。

最後に、残った(A)は、(C)の Stuhl「椅子」を先行詞とする関係文として末尾に置かれます(=「それでその上に私は座りました」)。

したがって、**正解は1**。

【一口メモ】

出題の説明文は、2014 年秋期では「並び替えて文を作る」、2015 年春期では「並び替えて**1つの文**を作る」と変わっています。しかし、要は、語頭が大文字の語句から始まり、ピリオドで終わるものを作れということですが、そうすると、必然的に、出題文は、主文同士の結合や主文と複数の副文(関係文も含む)の結合したものにならざるを得ませんね。したがって、学習ポイントは、接続詞と関係詞になると考えられます。

【対策学習】長い語句の組み合わせ（小問4に対応）

1. 従来の単語レベルの組み合わせではなく、長い語句や副文、関係文を並び替えて、複雑な複合文（合成文）を作ることができるかどうかが出題のポイントです。このような場合、必要なのは、副文、zu 不定詞句、関係文などの読解力でしょうね。これらの文法事項については、本書の第3章と第4章で学習してもらうことにし、ここでは、この設問に関して有益であると考えられるポイントをいくつか述べることにします。

2. 1点目は、ドイツ語の文では、基本的に**主語と動詞**が表示されるということです。

日本語では、「知ってる？」「うん、知ってる」「本当に知ってるの？」「本当に知ってる」…というような**主語なし**の会話は可能ですが、ドイツ語では、不可能ですね。動詞を使用する限り、基本的に、主語も表示しなければならないからです。

（この点を考慮して、【解説と解答】では、「主語と動詞が明示されている主文を選ぶことが解答への第一歩」と書いたのです。）

3. 2点目は、ドイツ語の文では、**文頭**、**2番目**（第2位）、**文末**という3つの位置が重要ということです。

たとえば、**日本語**を学ぶ外国人から、日本語では文頭にどのような語句を置くのですかと尋ねられたら、みなさんは、どう答えますか？「**私は**、そんなこと、わかりま、せん」という文の場合、文頭は主語、「**そんなこと**、わかりま、せん」と言えば、文頭は目的語、「**わかりま、せん**」と言えば、…。このように、日本語の場合、かなり気軽に色々の語句を省略するので、**文頭**に置く語は？と尋ねられても、答に窮するのです。

英語の場合はどうでしょう。文末にはどのような語句を置くのか？と尋ねられたら、どう答えますか？たとえば、I am very busy now. と言えば、文末の語は副詞、I am very busy. と言えば、形容詞。

他方、文頭に置く語は？と言えば、例外はありますが、ふつうは主語ですね。このように、英語の場合、主語を文頭に、必要に応じて語句を並べていくので、文末は？と尋ねられても、答に窮するのです。

では、ドイツ語の場合はどうでしょう。定動詞（定形の動詞）の位置は、基本的に、第2位（平叙文、補足疑問文）、文頭（決定疑問文）、文末（副文）と決まっておりますね。では、ドイツ語の場合、なぜこのように順番を指定することができるのでしょうか？それは、上の2で述べたように、ドイツ語には、動詞を用いる場合、主語、目的語、密接な関係にある前置詞句などを省略しないという規則があるからです。日本語ではふつう省略される語句も、人称代名詞や副詞によって言い換えられるので、語句の順番がしっかりと保持されるのです。

（たぶん、だから、ドイツ語の人称代名詞は、数が限定されており、また、形として単純なのでしょうね。）

4. 3点目は、文中での語句の（構造的）**相互関係**が明示されるということです。すでに皆さんは、主語としての **zu** 不定詞句を文末に持って行った場合、その元の位置に非人称の **es** を置くということを学びましたね。目的語としての **zu** 不定詞句を文末に持って行った場合も、— こちらは動詞次第になりますが —、その元の位置に非人称の **es** を置くことがあります。

Es ist mein Traum, in Deutschland zu studieren.

ドイツの大学で学ぶのが私の夢である。

Als Kind habe ich **es** gehasst, ins Museum zu gehen.

子供のころ、私は博物館に行くのが嫌いでした。

これも、文中での構造的関係を明示的に示すためなのです（このような観点から、本書 48 頁の、不定関係代名詞文における指示代名詞の使用に関する説明も読んでください）。ドイツ語では、とにかく何が主語で、何が目的語であるかを明示「しまくる」のです。したがって、逆に言うと、ドイツ語を読む際、何が主語であり、何が目的語であるかをしっかりと捉えることが重要だということになります。

【実戦トレーニング】

次の(1)～(3)で、(A)～(D)を並び替えて文を作るとき、正しい順序で並んでいるものを下の1～4のうちから一つ選びなさい。なお、文頭に来る語の頭文字も小文字のままで、コンマ(,)とピリオド(.)は省かれています。

- (1) (A) weil sie seit gestern Fieber hat
(B) dass sie heute nicht auf unsere Kinder aufpassen kann
(C) sie hat mich angerufen
(D) um mitzuteilen

- 1 (A) → (C) → (D) → (B) 2 (D) → (B) → (A) → (C)
3 (C) → (D) → (B) → (A) 4 (D) → (B) → (C) → (A)

- (2) (A) in dem es jeden Tag ganz selbstverständlich hell wird
(B) wenn ich nachdenke
(C) dann bekomme ich ein unangenehmes Gefühl
(D) dass ich in einem Land lebe

- 1 (B) → (C) → (D) → (A) 2 (B) → (D) → (A) → (C)
3 (A) → (D) → (C) → (B) 4 (D) → (A) → (B) → (C)

- (3) (A) die in die Rentenkasse einzahlen
(B) sie aber zu wenig Kinder in die Welt setzen
(C) weil die Lebenserwartung der Deutschen steigt
(D) kommen auf immer mehr Rentner immer weniger Jüngere

- 1 (B) → (C) → (D) → (A) 2 (C) → (A) → (D) → (B)
3 (B) → (D) → (C) → (A) 4 (C) → (B) → (D) → (A)

【実戦トレーニング】の正解表

第1問

- (1) 1 (→ mutig 「勇敢な」)
- (2) 3 (→ europäisch 「ヨーロッパの」)
- (3) 2 (→ Frechheit 「厚かましさ」)
- (4) 4 (absagen 「取り止める」 → *absagbar)
- (5) 1 (→ Änderung 「変化」)
- (6) 3 (Kauf 「購入」 → *Misskauf)
- (7) 2 (→ trösten 「慰める」)

第2問

- (1) 3 (A) an|nehmen 「(招待などを) 受ける」
(B) nach|denken 「熟慮する」
(C) aus|gehen 「(楽しい時間を過ごすために) 出かける」
(D) zu|binden 「(紐などを) 結んで締める」
- (2) 4 (A) zurück|treten 「後ろに下がる」
(B) auf|stehen 「起き上がる」
(C) vor|schlagen 「提案する」
(D) an|fangen 「始まる」

第3問

- (1) 3 A : なぜ彼に腹を立てているの?
B : しようと思えばできたのに、私のことを助けようとしてくれなかったから。
- (2) 4 A : 憂鬱 (ゆううつ) そうだね。
B : うん、すべきでないことをやってしまったんだ。
- (3) 2 A : とてもうれしそうだね。
B : うん、またもやロトで当たったんだ。
(ロトは、ナンバーくじ形式の宝くじの一種)

第4問

- (1) 3 訳：熱があるので、子供の面倒を見ることができないと伝えるために、彼女が電話をして来ました。
- (2) 2 訳：私は、まったく当然のように電気のつく国に住んでいることを考えると、少し心苦しい感じがします。
- (3) 4 訳：ドイツ人の平均余命が伸び、しかし生まれる子供の数が少な過ぎるため、ますます増える年金生活者に対して年金基金に支払う若い人たちの数がますます減少します。

* (3) の場合、(B) → (A) は、文法的に可能ですが、文脈的に排除されます。また、名詞を修飾する **zu wenig** 「少な過ぎる」、**immer mehr** 「ますます多くの」、**immer weniger** 「ますます少ない」には、格語尾を付けません。難しかったですか？

【読解・リスニング対策】-----

読解・リスニング対策は、2級の場合、本書で十分か？と問われたことがあります。文法的説明、そしてその用例は、かなり充実していると思うのですが、読解力・リスニング力については、**理解**の問題というより、**慣れ**の問題もあるので、みなさんの独自の努力もお願いしたいところです。

私は、ドイツ留学中、新聞を定期購読しておりましたが、毎日送られて来る新聞を最初はただ**眺めるだけ**でした。テレビもつけっぱなしにしてただ音声を**聞くだけ**でした。しかし、慣れて来ると、短い新聞記事なら何となく読めるようになり、テレビから流れて来る音声も知っている単語なら何となく聞き取れるようになりました。

今や、インターネット上でドイツ語の記事を好きなだけ読めるように、音声も好きなだけ聞けるようになっていきます。みなさんもまずはドイツ語の長文、音声に慣れることを目標に、毎日インターネット上の何かしらのサイトを開いて、ドイツ語を「眺めたり」、「聞いたり」してみてはいかがでしょうか？ 私のお勧めは、**Deutsche Welle** (google で **deutsche welle deutsch** と入力) です。
